

卒業

春夏冬（あきな）い

はれのそら

人
物

麻木麻衣（16）

須賀須美（16）

小山内浩二（16）

起 麻衣が駅に向かって走る

承 転んだ拍子にアクキー映る。過去シーン。

須美と一緒に作る

承 心 現在。走り続けるも電車に乗りそうに

なるのでスパートかける。回想シーン。須美

がコウへアクキー渡したい⇒卒業へ変更

○市街・全景

市街は夕焼け空となっているが、後方より黒い曇り空が見える。

○市街・歩道（夕）

市街の歩道を麻木麻衣（いの）がカバンを背負いながら制服姿で走っている。

周囲の雑踏を避けつつ、麻衣は市街中心部に向けて走る。

○市街・交差点（夕）

麻衣は歩行者用信号機の前で立ち止ま

る。麻衣はスカートポケットから、

vtuber『夜泣夜乃』のアクリルキーホ

ルダーを取り出す。

麻衣「あとちょっと！」

○駅ホーム・待合室

制服姿の須賀須美（18）が通学鞆を傍ら

に置き、駅待合室で椅子に腰掛ける。

須美は携帯を操作している。

SNSのTwitterの画面を見て、Vtuber

『夜泣夜乃』のページをじっと睨む。

何度も更新をかけるが、画面に変化は

ない。

須美は鞆の中を物色し、汚れた『夜泣

夜乃』のアクリルキーホルダーを取り

出す。

須美はしばらくキーホルダーを眺める。

○ 同・歩道（夕）

交差点の信号が変わり、麻衣は雑踏を避けながら走っていく。麻衣は息が荒くなり、顔も紅潮している。

○ 回想シーン・学校・全景

桜が咲き誇る築年数が古い高校。校門には、『令和2年 愛知県立岬女子高等学校 入学式』と立て看板がある。制服姿の女生徒達が校門から出てい

く。

○ 同 ・ 教室 内

岬高校の教室内に、須美がタブレットで作業をしている。夜泣夜乃の衣装を

描いている。

麻衣が興味深そうに眺めつつも、遠く

の席から見つめる。

麻衣の視線に気づき、須美は猛ダツシ

ユで麻衣に近づく。

須美 「ね！」

麻衣 「え、ちょっと」

と、麻衣はたじろぐ。

須美 「この子の声、やって！！」

麻衣 「……はい？」

○須永家・須美の自室

麻衣と須美が須美の自室でPC作業を

している。冷房がかかっており、須美

がデスクに座り、デスクトップPCで

モニターに映ったイラストを加筆し

ていく。側に須美のスマホがある。

麻衣は須美の側の床に座り、タブレット

トのメモアプリに『デビュー配信 進

行台本』と書き込みをしている。

麻衣「須美さん」

須美「だから、須美で良いつて……何？」

麻衣「デビュー配信の時間……明日の夜7時

じゃなくて……」

と、須美はスマホを操作し『夜泣夜乃』

の「Twitter」を確認する。ツイート内のサムネイルにはキャラクターの左部に「5月8日9..00デビュー配信」と記載されている。

須美「あーっ！！」

麻衣「……私、変更のツイートするね」

須美「……いない」

麻衣「え？」

須美「これでいこう」

麻衣「がっこう……」

須美「そんなの休む！私がやるよ！」

麻衣「でも、声は」

須美「無音にする！初回で無音のアクション

ト……これで面白い事したら、一気にバズ

る。チャンスチャンス！」

麻衣「……」

麻衣は握りこぶしを作った。

○ 同・歩道

麻衣は雑踏の中を走っている。麻衣の

妄想が始まり、雑踏の人々がピクトグラムになる。ピクトグラムの大群を前に麻衣がマイクをカバンから取り出す。

麻衣「どいてーっ！」

超巨大化した超音波でピクトグラムを吹き飛ばす。

○須永家・須美自室内

ひぐらしの鳴き声が室内に響く。扇風

機をデスクトップPCに充てながら、
麻衣と須美は汗だくになって、作業を
している。PCのモニターには、『収益
化ありがとう』と描かれた未完成のイ
ラストがあり、須美が彩色している。
麻衣は夜乃のアクリルキーホルダー
をテーブルに置き、タブレットでスマ
ホでTwitterをしている。

須美「あつつー！エアコンの業者は早く来い
って！配信までにはマジで来てもらわんと」

麻衣 「… …」

須美 「麻衣もなんか言えって」

麻衣 「… …」

と、須美は大きくため息をつく。

須美 「… …ウケる。配信の時と全然違うし」

と、麻衣は紅潮し俯く。

須美 「あんだけハイテンションなの… …予想

外過ぎて、めっちゃ楽しいんだけどっ！」

麻衣 「あ、ありがと… …」

須美 「… …ガワがいくらか可愛くたって、今

の Vtuber 界限って伸びないし……もうち
よっと自信持って欲しいな」

麻衣「で、でも私……デビューの時」

須美「あの全編無音配信で専門メディアに取り上げられて注目されたじゃん」

麻衣「……」

須美「ここまでやったのなら、わがままだったって言うていいのっ！後半年……四か月か。

全力で突っ走ろう」

麻衣「北海道……かあ」

と、麻衣は額の汗を手で拭う。麻衣は

スマホを強く握りしめる。

麻衣「……わがまま……かぁ」

○夜乃リスナー・部屋内（夜）

20代中盤の青年が自室のpcモニタ

ーで夜乃の配信を見ている。

○マクドナルド店内（夜）

制服姿の少年がマクドナルド内でタブ

レットを使用、夜乃の配信を見ている。

○自動車系製造工場・食堂（夜）

作業服姿の20代前半の女性が夕食を
勢いよく食事を取りながら、スマホで
夜乃の配信を見ている。

○須永家・居間（夜）

居間のソファに寝転がっている須美が
夜乃の配信をタブレットで見ている。

○ 同・須美自室（夜）

麻衣は須美のPCを前にV t u b e r

『夜泣夜乃』として配信している。

麻衣「……えぐっ、ぐすっ。やっべ……夜メ

イトのみんな、ありがとうなっ！スパチャ

もファンアートも……嬉しすぎてうんこ漏

らしそうw」

と、麻衣は涙を手で拭う。

麻衣「え、赤スパ！？……これって」

○同・駅前

麻衣は駅前に到着するも、電車の停車を目撃する。麻衣は全速力で駅構内に入り、発車口まで雑踏をかき分けながら走る。

電車のドアが開き、須美が電車内に入る。

麻衣「須美————！！！」

と、須美は背後へ振り返る。

麻衣は階段付近で息も荒く、汗だくになっ
ている。

須美は困惑しながら、電車から降りる。

麻衣は須美の顔を見て口ごもる。何か

思いついた麻衣はカバンからキーホ

ルダーを取り出しす。

麻衣はキーホルダーを自身の顔近くに

並べて叫ぶ。

麻衣「辞めたくないっ！一緒に続けろっ！」

須美「……でも」

麻衣「叶えろよっ、わがまま！」

須美「え……？あっ！赤スパの」

麻衣「そう！」

と、麻衣の妄想が始まり、須美の体か

ら youtube のスーパーチャット欄が

飛び出す。チャット欄には『夜乃ママ

(絵師)…夜乃ちゃん、たまにはわがま

ま言ってもええんやで』と記載されて

いる。

麻衣も須美もボロボロに泣いている。

須美「……でも」

麻衣「やめるのやめ！卒業！」

須美「……他の奴当たれよ」

麻衣「須美じゃなきゃ、やだっ！！！」

と、麻衣は須美を睨む。

麻衣「ね、夜乃のママ続けてよ！」

須美「……しようがねえな。……やるぞ！」

麻衣「うんっ！」

と、麻衣がぐしゃぐしゃの泣き顔で返

事する。